

マネージメント情報

※畑作地帯の酪農家

先日、何年かぶり？に道内の酪農家視察に行ってきました。畑作地帯で平均乳量も道内トップレベルのところですよ。タイストールとフリーストールの農場を1軒ずつとメイズベイラーラッピングサイレージのコントラ（畑作農家）をみてきました。

以前から畑作地帯で何故酪農をやるのか？という疑問があったのですが、その謎が解けました。理由は「畑作より①安定している→②儲かる…から」ということでした。

その農場主が言った事を今も忘れられません「儲からない酪農経営ならやっている意味が無い」と。もう一軒のフリーストール農場の後継者（29才・独身）に酪農は楽しいですか？と聞いたところ、即答（+笑顔）で「楽しい!!!!」と返ってきました。

その農場は成牛250頭（常時220-230頭搾乳）自家育成で、労働力は彼と両親と搾乳パートが朝晩2名ずついるだけです。共同作業ですが、デントコーンもグラスも自分たち調整します。想像するだけでいつ休むのだろう？と思ってしまいますが、それでも満面の笑みで彼は「楽しい!!!!」と言っていました。

この二人の言葉は悲しいかな、專業地帯の根室ではなかなか聞くことができません。

「今のままの根室酪農？が良い」という言葉が聞こえてきそうです。

写真はないのですが、コントラの事務所でサイレージ調整の作業工程のDVDを見せていただいたのですが、人が食べる食品を作っていると見紛う程の丁寧さ、清潔さで驚いてしまいました。コントラの代表者が仰るには、畑作農家の性分できっちりとやらなければ気が済まないということで、作業の基本はスイートコーンの収穫技術ということで、ハーベスターからラッピングの工程全てで土（汚れ）が一切混入しないように工夫されていて、できたロール一つ一つに通し番号が入り、いつ・どこの・どの畑で収穫された製品か一目瞭然にわかるシステムでした。

彼らにとっては、全てが「当たり前」の事なのでしょう！か？

畑作地帯のこれらの感覚は見習わなければいけないと思いましたがいかがでしょう？

酪農專業地帯の根室にはまだまだやれる（眠っている）ことは沢山ありそうですよ。

※ T◎P セミナーの開催について

最終回第4回目のT◎Pセミナー（雇用セミナー）は来年1/28（金）10:00-15:00の予定で別海町交流センター「ぷらと」で開催することになりました。

雇用問題でお悩みの方はとても多くいらっしゃいます。一人で悩まずに某かのヒントがあるはずですので、是非参加して下さい。

私は全ての基本は「人とどう関わるか」ということだと思っています。

.....
・今年も一年本当にお世話になりました。

なんとか今年も無事一年送ることができそうです。ありがたいことです。

この時期には、定番の「今年は...」「今年も...」「来年こそは...」とも思うのですが、最近はその考えずに日常での「継続する」ということの大切さを特に感じます。

イチローのようにバッテリーボックスに入る時に毎日、毎回同じ動作を繰り返すことと同じかなとも思います。大リーグに行き唯一の成功者である所以でもあるのでしょうか。

酪農にとってもこの「継続」という事がイチローに繋がる最も重要なポイントになることを再認識しています。